

平成26年度 第2回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 川越市PTA連合会 ～



日時：平成26年7月22日（火）
午後2時00分～3時30分
場所：やまぶき会館 BC会議室

参加者

川越市PTA連合会 22名

出席者

市長、市民部長、教育総務部長、学校教育部長

意見数

| 分類 | 件数 | 内容 | 頁 |
|------------|----|-----------------------|----|
| 教育・文化・スポーツ | 16 | 学校行事で使用する市ホールの減免と予約方法 | 2 |
| | | エアコンの導入 | 3 |
| | | トイレの改修 | 6 |
| | | ICT | 7 |
| | | 自転車通学におけるヘルメットの着用 | 7 |
| | | インターネット対策講師の有料化 | 7 |
| | | 校地内排水溝の残土処理 | 8 |
| | | 中学校の部活動 | 9 |
| | | 土曜授業 | 10 |
| | | 非常勤講師の加配 | 12 |
| | | 学校教育への予算配分 | 13 |
| | | 生徒数の減少 | 13 |
| | | 統廃合 | 16 |
| | | 郷土愛を育む教育 | 17 |
| | | オリンピック | 20 |
| | | 各学校への配当予算 | 21 |
| 都市基盤・生活基盤 | 1 | 公園の設置 | 12 |
| 地域社会と市民生活 | 3 | 長期期間中のチャイム | 12 |
| | | 横断歩道の設置と白線の引き直し | 15 |
| | | 子ども110番の家 | 22 |
| 計 | 20 | | |

意見交換（要約）

《学校行事で使用する市ホール使用料の減免と予約方法》

意見 現在、学校行事である音楽会や合唱祭を市民会館の大ホールで開催している学校が結構ありまして、これは運動会や体育祭と同じように、保護者にも非常に大好評で、多くの方に観覧していただいています。

また、子供たちにとっても本当のステージに立つことというのは、非常に教育的にも大きな意義があると思っておりますが、この音楽会、合唱祭は学校行事ではありますが、実際には各校PTAが会場費や運送費などを捻出しておりまして、1日使用する学校で約10万円、半日で使っているところは約5万円を負担しているところなんです。

この市民会館が来年より「ウェスタ川越」ができる関係で使えなくなるというお話をちょっと聞いておりまして、やまぶき会館を使用するとなると、少しキャパが小さいので、生徒全員と保護者が全部入り切れなくなるような感じになってしまうかな、という思いがあります。

今度新しくできる「ウェスタ川越」なんですけれども、使用料を伺いましたら、市民会館の3倍ぐらいの料金になってしまうということでした。先ほども言いましたが、現在、この料金負担がかなり厳しい状態で、今、学校それぞれ運営しておりますので、この新しいホールを使えるというのも良いのですが、その費用負担に関しては、今の状態では新しいホールを使用して開催することはちょっと難しいかなというふうな懸念をしております。

要望としては、この「ウェスタ川越」の新ホールを学校行事などで使用するにあたっては、会場費の補助であるとか、学校関係で使うときには、規定の料金より安く使用できるような形をとっていただくことが可能であるか。または、その管理業者等に対して減免のお願いなどができるのかな、ということをお伺いしたいのですけれども。

市民部長 「ウェスタ川越」の大ホールにつきましては、指定管理者が指定管理をしております。その関係上、利用料金制という制度をとっておりますので、減免というのは一切ございません。もしも利用者負担が今の市民会館の3倍程度になるということであれば、利用者負担を軽減する意味では、市が学校に対しての補助金を出すという制度が一つ考えられます。それについては、教育委員会サイドの問題かなというふうに思いますが、現状の制度ですと減免というのはございませんので、その道しかないのかなというふうに思います。

市長 今、市民部長が申しあげましたように、仮に市が行事で使う場合も特段の配慮はしてくれないという予定のようなんですよね。それで、今、出ましたように、1つの案としては、何らかの形で補助を行政のほうから出すというやり方もあると思われまますので、その辺については、今後検討していきたいと思えます。

意見 今現在、大体2学期に市民会館のホール予約をさせていただいて、その合唱祭とかに使うような形を例年とっていたのですけれども、今回、予約がもう入れられないという形になっていまして、その関係で学校行事の日程もまだ定まっていないような状況があります。非常に子供たちも楽しみにしていますし、保護者の方も子供たちの発表の場ということで非常に楽しみにしている合唱について、特にそういう形で市にご検討いただいで、取り組んでいただければと思えますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

市民部長 新しいホールにつきましては、市民会館同様、11カ月前から予約ができませんので、既に予約を開始しております。ですから、もしも来年の11月に使うのであれば、12月に予約という形になります。費用負担がまだはっきり定まらないうちの予約という問題もあるかと思えますが、いずれにしても11カ月前から予約ということですので、よろしくお願ひいたします。

《エアコンの導入》

意見 クーラーの件です。いろいろなところからお話が出てきているかな、とは思うのですけれども、ずばりいつごろぐらいからご検討いただいでいるのかなと。

市長 クーラーの問題につきましては、もう大分前からご要望をたくさんいただいでおりまして、特にこの6月議会でも議員さんから質問という形でいただいでおる状況でございます。

ずっとこの間、検討をしてきたのですが、前向きに検討しております。いつごろからという点については、そんな遠くないという時期というか、なかなかお答えしづらひなのですが、そう遠からず実現させるという方向で今検討しています。具体的にいつというふうにはちょっと今申しあげられませんけれども、ご要望が多いというのは十分承知の上での判断ですので、ということでご理解いただきたいと思えますが。

意見 仕方がないですよね。

市民部長 21億円かかるんです、小・中学校全てに入れるのに。ですから、市長とすれば、すぐに入れたいと言いたひのですけれども、金の問題になりますので、すぐ、例えば来年から入れるということもなかなか言えないような状況なんです。

意見 例えば、段階的に各学校に。

市民部長 それは、これから決めさせていただいて、いずれ来年度予算のときには、はっきり言えるような段階にはなるのかな、と思います。ただ、非常に苦しい状況で、入れたいのはやまやまなんですけれども、入れられないという気持ちをわかっていただきたいというふうに思います。

市長 段階的に入れると言っても、例えば、5校ずつ入れるとか、そういうやり方はなかなか難しいと思いますね。

意見 いやいや、そうではなくて、各学校に例えば音楽室だけを入れるとか。

市長 今、特別教室は入っているところが多いと思いますが。今、普通教室が全く入っていないということで。

意見 音楽室だけは飛行機が飛んでうるさくて、窓が開けられない。霞ヶ関西小学校ですかね。4階などに教室があって、窓を開けると飛行機が飛んでうるさいと。閉めるともう暑くてどうしようもない、と。それで、クーラーがついていないという学校が1つあります。ですから、そういう教室だけでも先に、優先的にすれば何十万で済みますよね。

市長 やるとしたら2段階で、小学校、中学校の順にやるか、中学校、小学校の順にやるかという、そういうやり方になると思います。多分。

教育総務部長 エアコンの件は、今、特別教室には優先的に入れておりまして、小学校ですと特別教室は全部で415室あるのですけれども、その中で95室には設置済みで、中学校も379室のうち89室は設置済みとなっておりまして、学校によっては、まだ整備されていないというところもあるのは事実でございます。

特別教室は、いろいろな意味で優先的に入れているという部分もありますので、できるだけこの分につきましては、優先的に入れるように検討はしてまいりたいと思います。

あと、普通教室のエアコンを入れる場合、川越ですと、今入っていないのは857教室ぐらいあるんですね。全く入っていないのですけれども、それを一気に整備するとなると、基本的にはどういうふうに入れるか、という段取りを踏まないといけないので、基本計画と学校ごとの設計をしないと入れられません。その後に、受電設備のキュービクルというものをに入れて、太い線から電源を落として、クーラー用に変えるという設備も必要になりますので、そういうものも全部含めると、850台ぐらいを入れるには、相当準備と、メーカーへの発注、あるいは業者の手配等がございます。仮にお金があっても来年から入れるというのは、よほど準備をきちんとやらないとす

ぐにはできないという問題もございます。

それプラス、エアコンを入れた場合に、学校の今の授業体制がどうなるのかということも多少検討しないといけないので、そういうのもあわせて検討していくということで、多少お時間はいただくようかな、というふうには考えております。

意見 まとめてエアコンを入れたいというお話なのですけれども、学校の校舎の中で、4階建てのうち3階、4階が現状として、35度、40度近く行ってしまう。上に行けば行くほど熱気が上がってしまうということがあるので、学校としてはその辺は優先的に入れてほしいというところです。それが結局全部の工事をしなきゃだめなんですという話になってしまうのかもしれませんが、そういう形で、とにかく優先順位をつけて早目にやってほしいという声が保護者からも学校からもちょっと上がっております。ですので、それを参考にさせていただければと思います。

市長 わかりました。

意見 霞ヶ関地区で小・中学校 10校の連絡会というのを毎年やっているんですが、先日、その中で出たことで数点ありましたので、ちょっと言わせていただきたいと思います。

まず、ちょっとくどいですがけれども、エアコンの件も 10校全てでやっぱり入れてほしいという、PTA、学校のほうも言うておりました。これは先ほどとダブりますので、今後検討していただいたらいいかなと思います。

ただ、その中にお金がかかるということがありますので、ほかの市でも何かいろいろ情報があるところでは、何か京都のほうでは、設計から維持管理までを一括発注することによって、その経費を7割に抑えられることができたとか、あと上尾なんかでは、リースにして初期費用を抑えたなんていう、いろんな事案をもう多分ご存じだと思いますので、検討されているとは思いますが、そういうようなことがいろいろできることでもあるのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

意見 多分、今、エアコンの設置を検討していただいているのは普通教室のほうで、特別教室をまず優先的にということで、その後に普通教室のほうを設置するということだと思うんですけれども、それに加えて、給食の配膳室のほうもその検討の中に入れていただけるとありがたいかなと思います。

といいますのも、ほとんどの学校が給食配膳室は、夏場は30度近くまで朝から温度が上がっているような状況でして、給食配膳室は大体北側のほうにはあるんですが、それでも30度近く温度があるということです。大きな冷蔵庫は、各学校設置はされていますが、牛乳を入れてしまうといっぱいになってしまいますので、例えば、

ゼリーとかヨーグルトみたいなそういったものがメニューにつきますと、それを大体運ばれてきてから子供の口に入るまで 2 時間半近く、30 度のところにずっと置いておくような状況です。

そうしますと、この間もヨーグルトが出たんですけれども、食べる直前に温度をはかったら、もう 20 度近くまで温度が上がっているというような状況でした。食中毒対策の一環ということもありますので、エアコン設置の際には、給食配膳室のほうもご検討いただけるとありがたいかなと思います。

学校教育部長 エアコンを仮に全校導入という決定がされましたならば、どこの教室に入れて、どこを除くかという検討を当然しなければいけませんので、その中で、配膳室のご要望とか必要性があれば、当然配置するという事も考えられます。今後、全体の中で検討させていただければと思います。

《トイレの改修》

意見 トイレは順次改修していただいているということで、本当にありがたいのですが、その中で、霞ヶ関地区で小・中学校 10 校の連絡会の中に霞ヶ関南小学校があり、こちらは 1 階に保健室があるのですが、そこにトイレがないというような事態があります。保健室のそばにやはりトイレはあってほしいかなと思いますので、こちらもちよつと確認の上、ご検討いただければと思います。

学校教育部長 霞南小は、まだトイレ改修工事の予定になっていないのですけれども、1 階にトイレがないというのは、私は承知していませんでした。

意見 校長先生から何回か話をしてくれたみたいなのですが、全然聞いていただけなかったというふうに伺っています。今、ちょっと私も言うのを忘れたんですけれども。

学校教育部長 1 階にないのではなくて、保健室の近くにないということですか。

意見 いや、1 階のフロアにトイレが 1 個もないんですよ。あるのは閉鎖されている学童保育室のトイレしかないのですよ、そこには行けないんですよ。ですから、1 階の保健室でトイレに行きたくなったら、2 階まで上がって行ってトイレに入らないとできない。

学校教育部長 わかりました。申しわけないのですが、ちょっと調べさせていただきます。

《ICT》

意見 電子黒板とかICTに関しては、パソコンが各校入っているかと思うのですが、やはりデジタル教科書等を活用した授業を展開するためということで、何か学習面で効率化を目指して、他市でも入っているところもあるということなので、これは質の高い授業のためには、やはり今後、お金がかかりますので、検討していただくことになると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

学校教育部長 電子黒板とか、いわゆるパソコンのデジタル教科書とか、そういったたぐいについては、川越市は他市に比べて入れているほうではあります。ただ、いわゆる学級数とその台数において、まだまだ十分であるとは思っていません。

教育委員会としましては、例えばiPadとか、そういった導入も今考えていまして、トータルを見て、予算上のこともあるので、そのためには、今後そういうICTについて、教育分野でどういうふうに行っていくかという計画につきまして、ここで立てようと思っています。その中に、お話にあったような部分も折り込んでいきたいと思っています。

《自転車通学におけるヘルメットの着用》

意見 子供のヘルメット等の事故に関しては、ヘルメットを推進するかしらないかというところもあるかと思っています。名古屋のほうですかね、全面的に市のほうは全部ヘルメットをつけるんだということで、全員がヘルメットをしているということもありまして10校でも認識しておりますので、今後どうなっていくのかということを見守りたいと思います。

学校教育部長 子供のヘルメットの推進というのは、これは自転車通学という範囲においての話でよろしいでしょうか。

意見 通学で放課後なんかも関係してくると思いますが。

学校教育部長 市では、校長会等を通じて、自転車通学については、できるだけその方向に持っていくということで、校長先生を通してお話ししておりまして、ここでだんだんとヘルメットを着用する学校が増える傾向にあります。一斉に、というのではなく、費用のこともありますし、処々の学校状況もあるので、順次進めていくような状況でございます。

《インターネット対策講師の有料化》

意見 ゲームとかスマホ、携帯等の危険性において、有料化、講師、今までは講座と

かセミナーを、学校に講師の先生を呼んでやっていただいたときに、無料だったと思うのですが、これが有料化になったというようなお知らせが来ました。

今後、この有料化になるということに関して、例えば、市の専門的な分野の方がいらっしゃるのならば、その方が学校に来てお話をしていただくようなことができれば、無料のまま啓蒙活動というか、そういうのができるのかなと思いますので、そういういろんな手段がございますので、ご検討のほうをよろしく願いいたします。

市長 インターネット対策の講師が有料になったというのを知っていますか。私はちょっと知らなかった。今年度から有料化されたのですか。

意見 警察の講師の中でも有料化になるというのを聞きました。

学校教育部長 ゲーム、スマホから始まるいろいろないじめ等の問題もあり、非常に難しい面があります。情報モラルといった部分で、この会はPTAの役員さんばかりですから、やっている学校も多いと思うのですけれども、研修会を開いていただいて、お母さん方、あるいはお父さん方に知ってもらう機会を設けている学校も多いと思います。県の講師派遣が有料になったということで講師を呼ぶのに難しい状況がある場合は、市の教育委員会に言っていただいて、そのうえで、こちらでもどんな手が打てるのか、今後考えていきたいと思います。

《校地内排水溝の残土処理》

意見 東日本大震災が過ぎて、もう3～4年目を迎えるのですが、ようやく市のほうでも放射能測定をしていただいて、下水のほうの数値が下がったということで、今年の夏、ようやく4度目の夏に側溝の清掃を行う予定でいるのですが、この間、校長先生と教頭先生とグラウンドの校地内の排水を見ていったところ、かなりのボリュームの土が排水溝に入ってしまっていて、とてもじゃありませんが、手でできないということで、8月のお盆明けに、私の会社の重機を持って行って掘り返すことをやる予定です。その土の処分が2トン車で二、三台出るようなボリュームがあるので、校地の裏のほうにまくということもボリューム的に無理そうです。もし市でそういうストック場所、またはどこか置ける場所等があれば、教えていただきたいと思います。また、ほかにもこんな処理の仕方があるよというお話があれば、ご意見として賜ればなどというふうに思っています。よろしく願いします。

市長 何か回答できますか。土砂、残土とかそういう問題は環境にもかかわってくるし、それから建設にもかかわってくることなので、今ここで俄かにお答えできないのですが、自主的に掘っていただいた分については、優先的にどこか運べるように、対

応したいと思います、具体的にどこへ行ってもらえればいいですか。市民部長どうですか。

市民部長 希望される方は、後で電話番号を教えていただければ、私のほうで調べて連絡します。

意見 よろしくをお願いします。

市長 別に放射能とかそういう問題がないから、ある意味ではどこでも持っていけるとは思います。市のどこかの施設もですね。

《中学校の部活動》

意見 自分の息子が来々年中学に上がるのですが、中学の部活に関して、スポーツ関係の部活には運動系があるかと思うのですが、文化系の部活が自分の周りの区域では2つしかありません。それも吹奏楽部と美術部しかなくて、もう少し幅広い面で、スポーツだけではなくて、子供自身がいろんな方面で活躍できるような部活動を、文化系の部活も増やしていただけないかな、と思っています。地域の方で入っていただける方も、ぜひそういった方にもご協力をいただくなどして、充実した部活動ができないかな、というのを切に願っております。

男の子で運動が苦手だということになると本当に美術部か吹奏楽部か。どちらも苦手だとすごく悩んでしまっている男子生徒もいると思うんですね。中学に入るには、入っていく中で、部活動というのは、すごく希望があって、夢があって、青春のような場でもあるので、そういった面で少しご検討いただけないかなというふうに思っております。

市長 まず、私のほうで。中学校の部活については、指導者の問題と、それから部員が集まるかどうか、そういう問題がきっとあるのだと思うんですね。特に文化部、例えば理科の先生であれば、科学部とかそういう指導者には当然なれるわけだから問題ないと思うのですが、自発的に集まってくれる生徒が少なくなっちゃっているというのも一つの原因であるかと思ひます。まだ教育委員会は一応別組織ですので、そちらに働きかけをして、学校でそういう子供たちを盛り立てるような、そういう活動というか、授業をやってくださいというような、そういう主旨のことは、私のほうからもお話ししたいと思ひます。

学校教育部長 部活動の件はよくわかります。市長がお話ししましたように、指導者の問題としては1人の部活に指導者が1人、というわけにはいきません。引率等の関係もあり、運動部などでは、ある程度指導者が複数で入らないと、大会のときに対応

できないというような現状があるようです。そういった中で、文化部が今、2つしかないということで、確かに選択肢としては少ないのかなということはよくわかりました。

そもそも、生徒数が各校それぞれ若干減少傾向なんです。当然生徒数から教員数も決まってくるので、教員自体も昔に比べると1校当たりで少なくなっています。このような現状の中で、複数のお子さんたちが文化部を希望するとできるのかなと思いますので、学校にも問い合わせさせていただき、教育委員会でもそういう希望があるということは把握しておきます。よろしくお願ひしたいと思います。

《土曜授業》

意見 他市では授業日数の確保という面でもあるんですけども、学校によっては土曜日を隔週なり、月1回などという形で授業が行われている学校もあるようです。川越市内においては、そういった考えはあるのかということをお答えいただければなというふうに思います。

市長 土曜授業の問題については、私もできるだけ取り組みたい、やってほしいと思っています。今、教育委員長とか教育長にお勧めをしている段階ですので、それに対して教育委員会のほうがどう応えてくれるか。それが一定程度の応答がありましたら、またお伝えしたいと思うんですけども、執行部、特に私の考えとしては、授業の日数をもっと増やしても川越市としては良いのではないかな、というふうに思っているから、土曜授業は賛成です。

学校教育部長 市長とちょっと違ったことも言うかもしれませんが、土曜授業については新聞報道等によく載るんですが、実は何種類かあるんです。

1つは、いわゆる今ある土曜日に正規の教育課程上の授業をやって、子供が月曜日とか振りかえにならない場合です。

それから、学校等に地域の方やボランティアに入ってもらって、教育課程外のことを悉皆でやる土曜授業。例えば、地域のことを勉強しようというもので、地域の方に協力してもらっているというようなものです。

それから、似たようなものだけれども、今度は悉皆じゃなくて有志だけが参加するような土曜授業。皆さんだとおわかりだと思っんですけども、これは子どもサポート事業などが、まさにそういった授業に当たるわけで、川越市も全くやっていないわけでは、そういう意味ではないわけです。

でも、多分お尋ねは、1番目の件なのかなと思いますが、逆に私は皆さんはどう考

えていらっしゃるのかなと、お聞きしたいんです。

週5日制は、ゆとり教育の中で始まりましたが、その受け皿として地域のいろんな事業だとか、あるいはスポーツとか文化団体だとか、大分根づいてきたようにも思いますが、十分だとは思いません。自治体が土曜日に何をしているのか、という調査をやると、結構テレビを見ているとか、ゲームをしてという子も多いのも把握しています。

土曜授業については、1番目のいわゆる教育課程上の土曜授業については、今年度、会議をして決めていく方向です。方向性としては、いわゆる土曜日に実施している行事がありますよね。音楽会だったり、地域参観日だったり。それをある程度、年何回とか限定的にやっていこうかということで内部合意は得ています。

ただ、何で皆さんに伺いたいかというと、メリットとデメリットがありますが、その辺のところを皆さんはどう考えますか、ということなのです。

それと、もう一つ、エアコンの話も悩ましいんですけれども、授業時数の確保だけで言いますと、エアコンが入れば夏休みを短縮し、授業時数を増やすということも今後考えられるわけです。現状でやったら、きっと皆さんが猛反対すると思うので、今はできませんが、エアコンが入れば、そういうこともできるわけです。ですから、その辺も喫緊の流れがありますので、私どもとしては、その辺も見定めながら考えていきたいと思えます。

ちなみに、小学校の場合は授業時間数が足りておりますが、中学校は結構ぎりぎりのところがあります。中学校の中には、今年度、特別の承認願いを以って、生徒の振替をしない学校が2校ぐらい出てきそうです。11月頃だと思うのですが、音楽会とかがあつてなかなか振替がとれないので、生徒の振替はしないで、教員も服務規程上振替をしなくてはなりません、この振替を夏季休業とか冬季休業などに回すということ。いずれにしても、今年度中にどの線までやっていいよ、ということは、教育委員会を出していきます。

ただ、大幅に年間20回とか十何回もやるような土曜授業は、現段階では考えておりません。理由としては、今いろいろな動向があり、その中の1つに学習指導要領の変更もあるからです。もしかすると5日制ではなく、6日制に戻るという時期が早まることも考えられるわけなんです。そうなると、一番迷惑するのは学校だと思うので、国や県の動向を見定めながら、今後考えていきたいというのが本音です。市長のお考えもございますので、見つつはやっていきたいと思えます。

《非常勤講師の加配》

意見 個別支援が必要な非常勤講師の加配をもう少し充実させてほしいということが要望として上がっています。

というのは、個別支援が必要な子供がいて、現状ですと、どうしても1時間目はこの子を見たけれども、2時間目はその人ではなく違う子を見て、というような形で、結局は歯抜けになってしまうという状態だということなので、これはもう少し充実させてほしいなということを聞いています。これをお願いしたいなと思います。

市長 非常勤講師の加配は特別支援学級にかわる講師が行っているのですが、それが数が足りないよ、という主旨ですか。

意見 そうです。

市長 わかりました。

《公園の設置》

意見 あくまでも自分の住んでいる地域のみに関係することなのかもしれませんが、公園の設置についてお願いしたいと思います。これは多分、長年要望等はあちこちのところから出ているかと思うのですけれども、自分の地域には公園がない。あったとしても住宅地の中にぽつんと1つだけあるのですが、どうしても子供が集まる場所がないということで、今、子供は道路で遊ぶようになっていきます。その他、当地区には狭い道がいっぱいあり、今後大きな交通事故の起こる可能性もあるということもありますので、これはもう保護者の長年の願いというか要望です。

調節池があるんですけども、結局中には入るなと言われていたんですね。中は何も整備されていない草むらで沼地ですので、そこには入るなということになっていますから、子供の遊び場所が道路しかないというところが問題です。

市長 公園の要望については、特に川越の南部地域に関しては、1人当たりの公園面積も少ないということで、いろいろ考えてはいるんですが、なかなか正直言って、うまい解決策が俄かには出てこないというところです。そうは言っても、同じような状況を放置するわけにはまいりませんから、鋭意検討をしていきたいというふうに思います。

意見 よろしく申し上げます。

《長期休み期間中のチャイム》

意見 長期休みのときに、12時にチャイムを流してほしいという要望があがって

ます。今、2時と4時半でしたか。2時には防災川越のほうから、子供が帰りますよ、という案内をいただいています。4時半になるとオルゴールが鳴るような形になっていますけれども、やはりお昼に鳴らしてあげると、遊んでいる子供が家に帰ってくる。ほかの自治体でも何かそういうことをやっているということで話を聞いていまして、これはあまりお金がかからずにできるのかな、と思いますので要望いたします。

市長 チャイムを鳴らしてほしいというのは、例えば、防災無線か何かを使って全市的に流してほしいという、そういうご趣旨ですか。

意見 そうですね。通常、4時半に鳴りますよね、今、5時でしたか。5時にチャイムが鳴りますよね。そうすると、子供はそれを聞いて帰らなきゃならないという印象になると思います。長い休みの時には、結局時間が見えなければ帰れませんので、12時の鐘が鳴りました、では、帰りましょう、というようなことにしたいなど。ほかの自治体さんもやられているところが多いみたいなので、それは比較的ちょっとしたことでできるのかな、というふうに思うんですけれども。

市長 ご趣旨はわかりましたので、検討させていただきます。

《学校教育への予算配分》

意見 行政の皆さんというのは、長期的な視野に立って、予算を適正配分して施策を進めていくということになるかと思うんですね。

ただ、保護者から見ると、実際、本当に今すぐに改善してほしいということとギャップがあるかと思うんですよ。保護者の要望どおりに全てがなるかということは、ならないとは思いますが。それはもう重々わかっています。それなので、その辺はやっぱり歩み寄り、落としどころというところを見つけてほしいなど。あくまでも、もう5年後、10年後だけを見るのではなくて、やはり今を見てほしいなというところは強く感じています。

《生徒数の減少》

意見 自分の地域の中学校は、新一年生は小学校からほぼ持ち上がりで入ってくるのですが、百数名いた小学校6年生の中で今年入学してきたのは八十数名で、20名近くが私立やほかの中学校に行ったということでした。今まで3クラスあったものが2クラスになるかどうかというような、少し人数が減少しているところがあるんですけれども、今後、小学生等々が激減するという年というのが何かあるようで、そういったことで、公立の生徒が少し減ってきている。特に川越市域ですと、私立で中

学校がある学校というのが非常に多いのではないかなと思うのですけれども、そのあたりの減少に対する対策というか、考えを何かお持ちでしょうか。

市長 小学校から公立の中学校へ行かないで、私立の中学校へ行ってしまう子供が増えているという情報はもらっています。理由としては荒れている学校があるとか、いじめがあるとか、学力を問題にしている人もいらっしゃるとかであるように聞いています。

市としては、基本的には義務教育ですから、きちんと問題なく中学校の義務教育が受けられるような、そういう環境を整備しなくてはいけないだろうということで、いじめ対応であるとか、そういうようなことも考えています。先ほど私が土曜授業には賛成だというような、簡単にいえば学力アップするための勉強時間を増やすためには、土曜授業も必要でしょうと、そういう割と単純な考え方からそういうことを言っているのですけれども、いろんな形で川越の中学校の成績が落ちないように、むしろ向上していくような、そういう努力もしていきたいというふうに思って、いろいろ教育委員長さんなどにもお話をしているところであります。

こういうのは、少なくとも3年ぐらいは、効果が出るのに時間がかかることですので、今年とりかかったからといって、すぐ来年、私立中学校へ行く人が減って、公立へ行ってくれるかという、そういうふうにはならないとは思いますが、鋭意努力していきたいというふうに考えています。

学校教育部長 児童数や生徒数の変化につきましては、実は地区によって全然違っていて、多分ここにいらっしゃるPTAの会長さんの学校の中には増えている学校もあるわけです。例えば、南古谷小だとか、あちらの方面はまだ増えているんですね。教室が足りないという話になってしまっているわけです。

一方、総体的に言えるのは、いわゆる大規模校、中学校だと十何クラスとか、学年10クラスぐらいあるだとか、そういった類の学校は少なくなってきました。川越市全体で見ると、みんな中規模化しています。例えば、所沢と川越の児童・生徒数は、ほとんど同じか、学校数は川越のほうが多いんです。それからわかるように、1校当たりの児童・生徒数は、少ないというか中規模化していて、これは、考えようによると、ある意味いいことなんじゃないかなと思うわけです。つまり、多くの児童・生徒の中で埋もれてしまうよりも、少ない人数の中で自分の活躍できる場があればいいなと、そういった面ではいい面なのかなと思います。

ただ、私立への移動については、近年、そんなに私立のほうへ流れている状況はありません。ただ、今度授業料の関係で、高校等は私学への助成もあるから、今後増え

るかもしれません。

いずれにしても、各学校が学力の面だけでなく、いろいろ魅力的で安心・安全な学校づくりというのが大切だと思うので、川越市教育委員会としては、それに向けて全力を尽くすまでかなと思っています。

市の事業としても、「学力向上プラン」というのを出示まして、川越市では、どの学校もどの生徒も児童も、こういう力をつけましょう、というのをここで示しました。これは、これから学校等と連携して、その力をつけていくようにということをやっています。

それから、学級数が減っているなんていうことがありましたけれども、先ほどの部活動などの部分でも言えるのですが、そういう面でのデメリットというのは出てくると思うので、どうやっていけばそれが解消できるのかなというのは、今後の課題として受けとめて、持ち帰らせていただきたいと思います。ご質問ありがとうございました。

《横断歩道の設置と白線の引き直し》

意見 地域の安全、通学路の安全ということで、川越市、川合市長にもいろいろと取り組んでいただいているのは承知しており、ありがたく思っております。

また、各学校にも、危険箇所があれば提出してください、ということで、校長先生にお渡しいただいているということも承知しております。

新規に信号をつけてほしいですとか、標識をつけてほしい、また横断歩道をつくってほしいということだと、そういったことは各地区から申し出があると思うんですが、時間がかかることだと思います。実際、自分の校区で子供の通学路に道路を渡る部分がありまして、そこに新規に横断歩道を設置してください、横断歩道を設置してください、という要望をさせていただいたときに、埼玉県警、または公安委員会を通すと思うのですが、調査等が入ると思います。

実際に設置されたのですが、要望させていただいてから1年が経ちました。やっとなんかついて、つけていただいた、という感じなのですが、既に横断歩道があるところが経過年数とともにあせてきています。その白線の引き直し等をしていただければ、子供たちの安全確保ができますし、また運転手、自転車などに対する抑制になるかと思います。例えば、横断歩道の引き直しの場合、これは市の職員に随時チェック等をしていただけているものなのではないでしょうか。それとも学校の校長先生や地域住民、保護者のから要望して初めて設置という案件に乗るものなののかについて、伺いたいと

思います。

また、川越市全域の白線を引き直すということになると時間等がかかると思うのですが、例えば今年度は古谷地区や名細地区、次年度は霞ヶ関地区などのように、時期をおいてやり直すという話を聞きました。それが本当かどうかわかりませんが、そういう場合に、即座に対応していただけるものかどうかを伺いたいと思います。よろしくをお願いします。

市民部長 まず白線の引き直しにつきましては、基本的に霞ヶ関地区だとか古谷地区だとか、地区を決めて行うということではございません。本来であれば、市の職員が市全体を把握した中で、薄いところを優先的に新しく引き直すということがベストかもしれませんが、言いわけではございませんけれども、川越市は面積が広くて把握し切れないような状況でございます。

実際に各地域の住民の方や、学校の先生、PTAからご要望をいただいて、その現場を見させていただいて対応しているというのが現状でございます。新規の横断歩道については1年かかったということでございますが、それについては、埼玉県警と公安委員会との協議がございますので時間がかかります。けれども、引き直しにつきましては、できるだけ現場を見させていただいて、早期に対応したいと考えております。

ただ、予算があるものですので、予算の範囲内で、ということになります。あまりにも多く今年度予算を使ってしまいますと、予算がなくなりますので、また来年度という形になるかもしれませんけれども、できるだけ早い時期に対応したいというように考えております。

《統廃合》

意見 先ほど学校教育部長から、川越市内には小中学校が54校あるというお話がありました。霞ヶ関南小学校は多分一番人数が少ない小学校だと思うんです。

私は非常にアットホームな小学校で、多分一番ほんわかして、地域の人たちともうまくいっているのかなと思っているのですが、その一方で非常に不安があります。そのうち統廃合されてしまうのかなと。

私も子供に1年生がいるものですから、ずばり何人を切ったら統廃合されてしまうのでしょうか。今、児童数が220～230人だと思うんですね。安比奈地区には新しく住宅が建ちはじめているのですが、霞ヶ関南小学校のメインはかすみ野なんです。その平均年齢が70歳と聞いたので、将来的にどうなるのかなという不安が非常にあります。

学校教育部長 霞ヶ関南小は市内の中での小学校で一番人数が少ない学校です。一番近年で統廃合があったのは古谷東小学校で、それが統廃合で古谷小学校と一緒にになったという経緯があります。

学校教育部の学校管理課が所管している学校の「あり方検討委員会」というのがございますが、ここで市内の増えている学校、減っている学校について、どのような点に困っているのかということを検討しております。

確かに霞ヶ関南小は、毎年話題にはなりますが、私たちが推計したものでは、当分の間、ある程度の人数で維持されていくというふうに推測されていますので、現在のところは特に統廃合とか、そういった案件にはなっていません。

ただ、生まれてくる子で推計しかできないので、先々、見ていく必要があるとは思いますが、少なくとも現段階では、そういう話題にはなっておりません。

《郷土愛を育む教育》

意見 川越市は、文化財等にすごく恵まれていて、蔵造りや喜多院、川越まつりなど、そういったことで、住むことについては誇りを持っている人が多いと思うんですよ。

しかしながら、郷土愛の醸成ということについて、まだまだ小・中学校の段階で、十分かというところとわからないと思います。

三つ子の魂百じゃないですけども、やっぱりここ、川越に住んでいて、いいまちだなと。また大きくなって、大学に行って、あるいは海外に行っても、やっぱりこの川越はいいまちだな、ということ誇りとしてPRしていくこと。そして自分たちが帰ってくること、そして、川越のために何かできないかな、ということで、いろんな知恵とかそういったものを持ち帰ってくること。それが人をふやすこととか、地域の活性化とかにつながると私は思っています。

つきましては、地域行政、地方の過疎化とかそういった問題もあるかと思えますけれども、行政の取り組みとして、小・中学校の段階で郷土愛を育成する、育てるということについて、積極的に取り組んでいただいたらどうかという考えが私にあります。

具体的に言いますと、川越市には川越市立美術館があります。また、市立博物館、これは立派な博物館があるんですけども、「どんな方が使っているのですか。」ということをお聞きしたところ、「郊外、市外の学校の利用者が多いですね。川越市内の見学は意外と少ないんです。」というお話でした。

私のところの中学校は2年後に30周年を迎えます。30周年を迎える記念事業の中

に、そういった川越に住む誇りというか、巣立っていく子供たちが、やっぱり川越がいいまちだな、ということを経験の段階で持ってもらうためのイベントを何か組む中で、その博物館とか美術館の利用をやりたいなど、今、私個人として考えているんです。しかしながら、学校全体の総和としてやっていくには、お母さん、お父さん方の協力があるわけですので、ちょっと時間がかかるかなと思っています。

そこでお聞きしたいのが、市当局の取り組みとして、地域振興とか、観光、文化の振興ということで、初期段階で小学校、場合によっては中学校が一番効果的だと思いますが、各学校からバスをチャーターさせて、できるだけ動員数を多くして、中学生向けのイベントを組んで、川越はこんな立派なまちなんだよ、ということ、義務教育段階のときに組み入れようというお考えはないかどうか、ということについて、お聞きしたいと思います。

そして、それがもうちょっと発展的にうまくいけば、私は広島県の呉市の出身で、大学でこちらに来て、ずっとこちらにいますけれども、呉市はちょうど市制の規模としては、広島県でも割と大きな市なんですね。50万人規模でやっているんですけれども、その出身者に観光親善大使のような名称をつくりまして、呉市の美術館とか、あといろいろなイベントのコースを行った場合、1日限りの、市の管轄する美術館等には無料で回れるというものがあり、そのかわり市をよく知ってくださいね、というような振興事業をやっています。

同じように川越市を巣立った人たちが川越市をPRしてくれたりとか、場合によっては、税金を他の行政に納付することなく、寄附という格好で川越市に納付してくれれば、税の財源になるというふうに考えます。

その辺の三つ子の魂の醸成というか、地域愛、郷土愛、そういったことについての取り組みについて、積極的に取り組んでいただけるかどうか、その辺をご指導いただければと思います。よろしく願いいたします。

市長 子供さんに郷土愛を持たせるための事業、ということになると思いますが、今の段階でも学校の授業の中で、地域のことを知ろうということで、そういうような時間を設けてやっているということはあります。

ただ、市が持っている博物館とか、そういうところに来る子供が比較的少ないという、そういうようなことも事実でございますので、できるだけ市が持っているいろいろな施設を利用して、もっともっと子供たちに自分の地元の地域のことを知ってもらって、かつこんないいところがあるんだということを発見してもらおうという、そういうことはおっしゃるとおり必要なことだと思いますので、これからもさらに力を入れて

進めていきたいというふうに思っています。

ふるさと納税の件についても、お話が出ましたけれども、ふるさと納税もやってはおりますが、正直言って今一步成績がよくないんですよ。これはなぜかという、ふるさと納税をしてくれた人に、地域の特産品か何かを地方の自治体は送っているのですが、川越の場合はこれとってお送りできるものがないとか、そういう議論もいろいろありますが、これについても、今後は伸ばしていくように努力はしたいと思えます。

学校教育部長 今おっしゃっていただいた子供たちへの郷土愛を育むということには、私も大賛成です。

ただ、ちょっとだけ言いわけっぽいのですが、川越市内の3年生はみんなバスをチャーターして博物館には行っています。3学期に昔の暮らしということで、特別展を開いているので、そちらには全員行っています。それから、6年生は美術館を利用する学校もありますが、博物館にもバスで行って、歴史関係の勉強を行っています。

それでは、何で市外の利用者の方が多いかという、4年生の学習では、3年生で市の暮らしを勉強して、市の地形や地理、それから歴史などを勉強した後に、4年生で自分の住む地域と違うところ、特色のあるすばらしい市を見に行きましょう、という勉強があるんです。つまり、近隣の狭山市や所沢市の児童は川越市に来るのですが、川越の子どもたちは川越に住んでいるので、川越では教材にならないんです。ですから、4年生は川越ではなく他へ行っておりますので、その辺りはご理解いただければと思います。

そういう面でいうと、博物館には「博物館利用研究委員会」というのがありまして、私も若いころずっと委員をやっていたのですが、そこでは、いろんな教科で、どんなふうにしたら川越のことを児童や生徒に知ってもらえるか、ということで、博物館が開館したころからずっと続いております。それこそ国語、理科、社会だけでなく、英語や家庭科などの、えっと思う教科まで、いろんな研究をしてきました。

この間、その担当と話したら、少し行き詰まっています、とのことでした。いろいろやってはいるけれど、なかなかうまくいきません、と。本市も「博物館利用研究委員会」を利用して、そういった研究は今後も続けてまいりたいと思えます。主旨には大賛成です。ありがとうございました。

意見 学校教育部長に追加で相談したいんですが、実はボトムアップで博物館に行ったときに、私は事務局の方にカリキュラムというか、どういう取り組みができるかな、ということで相談したんですよ。そうしたところ、規模とか参加する人数とか、どう

いう主旨で教えていいか、1日だけでいいのかどうか、などいろいろなことがあります。そういうお話ですと正直言って総意をとりにくいんですね。

だから、その辺を市行政全体として、モデルケースとして2日かければ、こういうメニューができるよとか、1日だけであれば博物館だけかな、とか、2日かければ1ヶ月後に市美術館にも行けるし、時の鐘経由で喜多院も回れるよ、とか。そういうモデルケースを作ってもらって、学校側にこういうケースがあるけれども、どうだろうか、とお話しただけであれば。予算措置としては、バス代ぐらいは出すよとかという格好で提案をしてくれると、PTAとか保護者側としては、実を言うと取り組みやすいんです。

それがPTA単体として議論を持ちかけていって進めていくというと、なかなか難儀な問題がありますので、ぜひその辺、行政が後々の財政人を確保するとか、帰ってくる労働力や知恵という部分においてUターン現象を促進するという、魅力あるまちだということ根づかせるという意味で、提案を各学校にさせていただけると、本当はありがたいです。

ぜひ、メニューを具体的にいろいろと提案していただけると、我々も乗っていきやすいというか、実施しやすいという側面がありますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

《オリンピック》

意見 6年後のオリンピックでは皆様ご存じのとおり、霞ヶ関カンツリー倶楽部が会場となっているかと思いますが、霞ヶ関地区の話の中でも出てくるんですけれども、オリンピックという一大イベントに際して小・中・高生の活躍する場があればいいね、というようなことをよく言われます。

市としても、これから長い年月をかけて考えていくかと思うのですが、地区のみんなが考えた、そういう案があったときに、そういうものを聞いていただくような場所はあるのか、ということをお願いしたいと思います。後は市全体としても盛り上げると思いますが、何か小・中学校の生徒たちがそれに参加できるようなことを考えていただければと思います。よろしく願いします。

市長 オリンピック関連につきましては、市民の皆さんからおもてなしの方法であるとか、そういうようなものについて、いろいろなご意見を頂戴したいというふうに思っているところです。まだ特別にそういう場は設けてはいませんが、今の段階であれば市民意見箱に入れていただくとか、あるいは全く自由に、こういうようなこ

とをやったらどうか考えているんだけど、というようなことを、オリンピック準備室であるとか、私のところに言ってきていただいて結構だと思います。

今はまだハード面でどういうことをやらなければならないかを中心に検討を進めているところなんですけど、もう少ししましたら、具体的におもてなしとしてどんなことをやるのか、できるのかというようなソフト面での検討を進める予定です。市民の皆さんから意見を募集しますよ、とか、そういうことも必ずやりますので、そういう機会に出していただいてよろしいんじゃないかというふうに思います。

《各学校への配当予算》

意見 うちの学校は先ほど出ていた話とは逆に年々増えておりまして、来年には児童数は1,000人ぐらいになるということを知っています。教室不足は来年増築という方向で進んでおり、設計をしていただいているということですので、2年後には解決できるのかなと思いますが、その一方で学校予算が大変厳しいということを知っています。

この地域は、とても温かくて、地域の方々がとても関心を持ってきています。ですから、学校もそれに対していろいろな発信をしますので、何かがあればすぐに回覧板を回しております。生徒数も多いので、家庭数で800部ぐらいはおたよりを出しており、さらに回覧分もあるということで、市のほうからいただいている予算ですと、印刷代や紙代でほとんどがなくなってしまうというのが実情なのだと思います。

ほかの地域でもいろいろ同じような話は出ていて、私もどれぐらいの予算を各学校についているかまでは知らないのですが、例えば、うちの4分の1の学校の生徒数の学校がいたとして、その学校の予算とうちの予算は、正直、比率によって同じなのかどうか。地域への配布分等々を考えた場合、その予算が少ない学校と多い学校の予算配分は、どのようになっているのかなというのはいと思います。

あとは、うちはそれだけ人数も多くて、地域の方々の協力もあるので、PTAとしての予算はものすごく潤沢だと思うんです。すごく潤沢なので、正直に言えば学校にも潤沢に出せるんですけども、あまり出し過ぎて、本来市の教育委員会が出さなければいけないものまで使ってしまうと、数年前にあったような新聞問題になってしまいます。その辺りのグレーゾーンに対し、予算がないということで、その辺はどのようになっているのかなというのを少しお聞きしたいと思います。

市長 どういうふうに決めているのかという、要するに人数、生徒数割りなのかとか、そういう問題のようですね。

教育総務部長 学校に市の教育委員会が配分した事務費などにつきましては、学校間での子供の数などが違いますので、それに見合った形での配分はしております。

意見 それでも、十二分に足りない場合ということで、学校からの要望も行っているとは思いますが、それに対して校長も頭を痛めているところがあるんです。正直なところ、相当補助をしているんですよ。それをなくした場合、立ち回らなくなってしまい、例えば回覧ができなくなってしまったら、うちの地域でそういうことをしようものなら、すごく怒られてしまうんです、学校側に。どうする、どうなっているんだと言われちゃったりもするんです。その辺の地域とかかわるには、やはりそれなりに経費もかかってしまうという学校の切なる思いもあると思うんですが。

教育総務部長 以前にも、本来ならば市のほうで負担すべき予算をPTAの方々をお願いしているところを議会でも質問をいただきまして、その辺は調査の上、改善していくというような形でお答えをしております。現状を把握させていただいて、改善できるところはしていきたいと思っております。

意見 実際にかかったものを学校が市にきちんと出すような形でいたほうがいいわけですか。

教育総務部長 そうですね。校長先生にも我々の方で、聞き取り調査等をさせていただきますので。

意見 ぜひよろしく願いいたします。

教育総務部長 わかりました。

《子ども 110 番の家》

意見 先日、中学校の女子生徒が朝練に向かうときに、自動車の中へ手を引っ張られたというような事案が発生したということがありました。そのときに教頭先生が言っておられましたのが、その生徒は家のそばで、なおかつ「子ども 110 番の家」の看板がかかっているものを近くに見ながら、そういう事案、事件があったと。その子は犯人を振り払って、わざわざ遠い中学校まで行って教頭先生に言い、それから警察に言ったというような話がありました。

ちょっと考えなければいけないのは、その子には家に戻るという選択肢もあったと思うのですね。そして、「子ども 110 番の家」の主旨が、まさにそういうような時に逃げ込むところだということを考えると、「子ども 110 番の家」というものの自体の機能がうまくいっていないのかな、ということがありました。

私も「子ども 110 番の家」をやっております。やっているというか、参加させてい

ただいています。家の前にはその看板をつけさせていただいて、いつその近くにくる小学校、中学校の生徒が飛び込んできても対応できるように、マニュアルも青少年を育てる地区会議からいただいて置いております。

ただし、やはり「子ども 110 番の家」というのは普通の自宅なので、そこに人がいればいいんですけれども、私も仕事をしている関係でいなかったりとか、妻も買い物に行ったりでいなかったりとか、いろいろすると思います。その抑止力だけでもいいんだ、というようなことを会長は言われていて、まさにそうだと思います。賛同してやっている方たちには高齢者が多いということを交流会があったときに言われていましたけれども、その中で、どう対応していいのか、よくわからない、というような話もありました。

地域の人に任せると、みんなわからないんですよ。わからないままでも力を発揮しようと一生懸命やっているんですけれども、実際にそういう事案が発生した時に、無力感を感じると非常に寂しいものがありますね。子供に安心なんだよ、そこに入っていいんだよ、と学校でも言っていると校長先生からは聞いています。ですから私としては講習会とか何でもいいんですけれども、啓蒙活動等をしていただいて、そういう推進を、市としても見ていただけるとありがたいなと思っております。

市長 「子ども 110 番の家」の看板を掲げてくださる家が随分増えたということで、ある意味では喜んでいるんですが、それが活用されなかったというか、その点につきましては、今おっしゃられたように、1つは子供に対して、自分の通学路の途中で、こことここがそういう逃げ込める家なんだよ、という、その辺の啓発というか教育というか、それはしっかりしていかなければしょうがないかな、と思います。

それと同時に、今おっしゃられたように、「子ども 110 番の家」を受けてくださっている方に対して、できるだけ登下校の時間帯は家にいていただきたいとか、あるいは、実際に子供が来たときにどう対応するのか、その辺の啓発もこれからしっかりやっていきたいというふうに思います。

学校教育部長 新聞やテレビで話題になっている岡山県倉敷市の小学校 5 年生女児の件が今、報道で盛んに言われていますけれども、市内でも、例年、不審者の出没というのはありまして、ただ今年の特徴では、例年はいわゆる露出狂みみたいなものが多いですけれども、今年は車から急に止まって触られたとか、そういった案件があります。ここまで4月が2件、5月が1件、6~7月が2件ずつということで、数としては、特に多いということはないのですけれども、今言ったように、ケースがかなり違ってきています。こちらも憂慮して、教育指導課から校長会を通していろいろ話をし

たり、文書で注意を呼びかけたりはしています。

そういう中で、御指摘にあった「子ども 110 番の家」については、基本的には抑止力なのかなと思いますが、やはり何か研修みたいなのは、やっていかないといけないのかなとは思いますが。

私ももともとは学校所属ですが、当時、青少年を育てる地区会議の地区の会長さんから、「校長先生、何かいい方法がないかな。」と言われました。そこで、会長さんと二人で話し合ったのは、「では悪いけれども、お菓子を出すから、と言って子供を連れてきてくれよ」と。「できれば、演技がうまい子のほうがいいですよ」ということで、校長室から公募しまして、子供を連れて行って研修会をしました。子供には、「いいかい。『落ち着いて、落ち着いて』と言われても、絶対落ち着くんじゃないよ。」と話しました。「わあわあずっとしゃべってわめいていて、5分から10分やっても構わなよ。」と言ってやりました。

実際にそうやって研修会をやると、「ああ、なるほど難しいんだね。」と。「あなたは誰で、どこに住んでいるの。」とすら、実際には聞けなくなってしまう。だから、その研修会で一緒に参加した人たちに、とてもよかったと言ってもらえました。この研修会は受け手の問題です。あとは児童・生徒に「そこに入って行っていいんだよ。」と言うのだけれども、ここがなかなか難しいところです。不審者も知らない人だけれども、その地区の人も、その家の人も知らない人なんです。その気持ちはなかなかわからないのかな、と。

昨日の新聞だと思うのですが、今回、犯人が特定できた影には、こういう地域の人の目というのがあったというように記事に載っていますので、ちょっとだけ読ませてもらいます。『地元の町内関係者は、この地域は住民どうしのつながりが生きている。昔に比べて薄まったとはいえ、あの子はあそこの家の子だ、という雰囲気は残っていると語る。事件前から登校時にはPTA役員に地元の有志が加わり、通学路に立って見守ってきたという。』

やはり、あの子はどこのうちの子だというのは、お互いが知るといふ地域の目は、学校力ではなかなか培えないところなので、むしろそういう部分では地域の皆さんにお願いしたい。

学校では、生徒とか児童にはそういう時に駆け込みなさい、という指導をこれまでもしてきており、また今後もお願ひしますけれども、あとは自治会などだと思いますが、取り組み方を工夫できたらなあ、と今の御意見を聞いていて思いました。

市長 本日は、大変貴重なご意見をたくさん頂戴しましてありがとうございます。市行政といたしましても、子供たちのことは、これからの川越、これからの日本を担う人たちですから、いろいろ気を使い、お金を使って、できる限りのことはやっていきたいというふうに考えているところでございます。

もちろん、いろんな面での制約というのはあるんですが、皆様方からいただいたご意見につきましては、十分取り入れながら進めていきたいというふうに考えております。これからもいろいろご要望やご意見やら、そういうようなものがございましたら、いろんな方法で行政のほうに遠慮なく、お伝えいただけたらというふうに考える次第でございます。本日はどうもありがとうございました。